（別紙様式４－１）　　（県立高等学校用）

玉名高等学校定時制　平成３０年度学校評価表

１　学校教育目標

（ア）「平成３０年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓　「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。
（イ）これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき、教職員が一体となって家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりをめざす

２　本年度の重点目標

本年度教育スローガン　「夢実現・未来への挑戦」

～「自己理解」と「他者との共生」 ～

① 生徒会を中心に学校行事の充実と生徒の主体的な学校生活への指導・助言
② 生徒の職業観の涵養と就業率向上のための個に応じた情報の提供と学力定着の指導
③ 保護者に対して、進路･保健だよりやＨＰ等を通しての本校教育への理解と協力体制の構築

●評価　　Ａ・良くできている。　Ｂ・概ねできている。　Ｃ・あまりできていない。　Ｄ・できていない。

３　自己評価総括表

評価項目 項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	共通の課題解決に向け、職員間の情報の共有を図り、連携を密にする。	職員会議や各委員会、職員連絡会等での情報を周知徹底する。	B	全体会での情報の共有や連携した取組ができている。更に各々の職員間での情報伝達を更に密にしていく。
		職員研修の充実	人権教育、生徒理解(生徒指導、特別支援)、不祥事防止等で実施する。	総務部で年間計画を調整し各係が企画のうえ、全職員で実施する。	B	年間計画に従って、意義のある研修ができた。次年度も生徒理解に力を入れ課題を見据えた研修を検討していく。
	安全な学校づくり	施設の安全確保	年間２回、安全点検表による点検を実施し、確認後すぐに危険箇所を改善する。	前期、後期に各１回、総務部が企画し、全職員で実施する。	A	６月と１月に、全職員で安全点検を実施した。今年度は、特に改善する箇所はなかった。
		緊急時の安全確保と緊急事態対応の徹底	危機管理マニュアルの周知徹底と安全意識の向上に取り組む。	救急救命講習や防災・防消火訓練等を総務部が企画し、全職員・生徒で実施する。	B	全職員・生徒で５月に緊急避難訓練を、１１月に防災・防消火訓練を実施した。生徒の参加率も高く実りあるものとなった。
学力向上	授業の充実	学習内容の充実	年間指導計画を作成する。基礎学力を定着させる。視聴覚・ＩＣＴ機器を活用した授業実践を推進する。	教務部が企画し各教科担当で立案作成して取り組む。	C	各教科で年間指導計画を作成し、見通しを持って授業を展開することができた。ＩＣＴ機器を積極的に使用する教科が増えてきてはいるものの、全体としては微増の状況である。また「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研修を重ね、更なる授業内容の充実に努めたい。
		研究授業の実施	わかる授業を実践し、授業の改善を進める。	公開授業や研究授業を実施し、意見交換会や合評会で教員同士が教え合い、研究を深める。	B	年に最低２教科の研究授業を行う（今年度は地歴・公民科と保健体育科）こととし、全職員参加の意見交換会を実施した。また秋に行う公開授業週間では、昨年度から継続して校外の参観者（例：中学校や保護者）からの御意見等も伺い、授業の改善に努めた。
		授業評価の実施及び高い評価	授業に関する生徒アンケートを実施し、満足度を９０％以上にする。	９月と２月に、教科担当者が実施し、生徒の意見も取り入れながら、わかる授業の推進を検証し、授業内容の充実を図る。	C	前期のアンケートでは、「授業の充実」に関して 91.6%の肯定的な評価が出たが、否定的な意見を持っている生徒もいるので、全ての生徒に対し、わかる授業をめざしていきたい。
	個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	授業や「玉定チャレンジ」を通して到達度を把握し、指導方法を改善する。	教科担当が学期毎に指導状況を見直し、工夫する。	B	４月から継続して、全職員で「玉定チャレンジ」を実施した。進学希望の２名の生徒はほぼ休むことなく参加し、卒業後の進路目標も固まった。
キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	進路目標設定の取組	玉名公共職業安定所と連携し、情報の入手および提供により、４年次生の１００％の進路決定を目指す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	C	卒業予定者３名のうち１名は９月に進路先が決定した。残りの１名は３月に進路先が内定し、もう１名は引き続き求職中である。
			個別面談等を通して就業を促し、生徒の就業率を７割以上にする。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	C	全職員で未就業の生徒の就業を促したが、生徒の状況や、学校との両立等で、５０％前後の就業率であった
			個別学習会「玉定チャレンジ」を通して、基礎学力の向上および進学指導を行う。また、各種資格の取得を促し、卒業時に履歴書に書ける資格が１つ以上あるようにする。	進路指導部および教科担当者が企画し、対象生徒の指導に取り組む。	B	４月から継続して全職員で「玉定チャレンジ」を実施した。全生徒の半数近くが参加し、ワープロなどの商業関係の資格取得に意欲的に取り組んだ。資格取得者は延べ２５名であった。

キャリア教育（進路指導）		キャリア教育の推進	就職希望者で就労未経験の生徒の半数以上を目標に、全員インターンシップに参加させる。 また、進学希望者は進学ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を促す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	希望者５名全員に実施した。そのうち３名は未就業の生徒であり、将来の進路選択の際の大きな参考になった。 また、進学希望者５名が学校見学やオープンキャンパスに参加した。
			職業理解講座やマナー講座、因虜区ガイダンスを実施し８割以上の生徒の参加を目指す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	A	職業理解講座、マナー講座、就職ガイダンスをそれぞれ６、７、１０月に実施し、８割以上の生徒が参加した。
			年間を通して進路ニュースの発行を定期的に行い、保護者に送付する。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	A	１２月までに４回の進路ニュースを発行し、成績表と一緒に保護者に送付した。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的生活習慣の育成	挨拶、時間の厳守、問題行動の防止を進める。 喫煙等の問題行動、盗難事案の発生件数「０」を目標に取り組む。	全職員の共通理解と共通実践で取り組む。	B	特別指導は今年度これまで１件である。登校時間や中抜けといった時間の厳守に課題が残った。全職員の共通理解を再度、徹底して実践していく必要がある。
		交通安全意識の向上	登校指導を実施する。 交通安全教室を実施し、交通事故事案の発生件数「０」を目標に取り組む。	生徒指導部が企画し、全職員で実施する。	B	毎日の登校指導を全職員で実施できた。考査期間には全職員で学校周辺の巡回もおこなった。今年度は交通事故の被害者が２名であった。啓発を継続したい
		自主自律の精神の育成	学校行事に関して、生徒が主体的に取り組めるように、生徒会執行部を中心として、各種行事の企画・運営を充実させる。	生徒指導部と生徒会が企画し全職員・全生徒で取り組む。新入生歓迎行事やレクレーション等の行事の企画を生徒が主体性を持って取り組めるように助言する。	A	今年度もクラスマッチや各種行事は滞りなく実施できた。年度初めに新入生歓迎行事、１月には生徒会全体企画、年度末には生徒会レクリエーション企画など、新しいチャレンジも積極的に実施することができた。
人権教育の推進	「命を大切にする心を育む」指導の充実	職員研修の推進	年間計画を作成し、全職員で研修に参加することで、人権意識の向上と適切な対応能力を身に付ける。	人権教育係が立案し、全職員で取り組む。	B	全日制と合同で開催される研修会などで、研修を深めることができた。校外の研修会にも積極的に参加できた。
		ＨＲ活動、教科指導における取組の推進	ＨＲ活動、各教科における人権教育の取組を策定する。	教頭、人権教育係を中心に全教科全領域で取り組む。	B	各教科内で十分に実施できている。ＨＲについては時間の確保が難しく計画の見直しを行いたい。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。	人権教育係が立案し、学校全体で取り組む。	C	保護者会等で、講話や説明を実施し、啓発活動を行うように改善したい。
		指導内容の工夫と充実	「命を大切にする心」を育む指導プログラムに基づいて指導を実施する。	人権教育係と生徒指導部で企画・立案し、学校全体で取り組む。	B	各ＨＲ、教科の協力により、自分だけでなく他者への思いやりの気持ちを高めると同時に、自他の命について深く考え、大切にしようとする心を養う機会となった。
いじめの防止等	いじめ問題への対策	いじめが起きないための日常的取組の推進	生徒が互いに思いやり、認め合える人間関係を醸成し、いじめを見逃さない体制づくりを推進する。 いじめ事案の発生件数「０」を目標に取り組む。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。 ＨＲ活動でいじめ問題について取り上げる。 いじめ発見のためのアンケート等を実施する。	B	心のアンケートを実施して全校生徒のいじめ問題の実態を把握することができた。現在いじめ件数は０件である。今年度はいじめ防止マニュアルも見直した。今後も、いじめを見逃さない体制を再確認して、全校集会での呼び掛け等、啓発にも努めたい。
		職員の資質能力の向上	いじめ、カウンセリング、生徒理解やネットいじめ等に関する校内研修を推進する。	生徒指導部、人権教育係及び保健環境部で連携し、学校全体で取り組む。	B	特別支援教育と連携して、生徒理解にについて共有するための研修を行うことができた。各学校行事も生徒と一緒に取り組むことで、学校全体としてよい取組ができた。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。いじめ発見シートの説明を行う。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。	B	保護者会でいじめのサイン発見シートを配付して説明を実施した。家庭での小さな変化も見逃さないように啓発を行った
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	個々の生徒の正確な実態把握と支援	個に応じたフェイスシートを作成し、それに基づき、支援計画、指導計画を作成し活用する。 各種研修への参加や校内研修を推進する。る。	教頭、特別支援教育コーディネーターが中心となり、連絡会等を利用して、生徒の困り感をもつ生徒を全職員で支援する。	B	個別の支援計画･指導計画も一部を除いて作成できた。様々な研修会への参加もあった。必要な生徒には適切に対しては、様々な期間と連携を取りながら丁寧に対応ができている。
保健環境指導	健全な心身の育成	心の悩みを持つ生徒の把握	担任や各部と連携し面談の機会を増やす。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	B	必要な生徒に対して、面談を実施の実施、専門家との連携もとれた
		健康診断後の治療率向上	検診結果を基にした自己の健康の保持増進や治療の促進を行う。	保健環境部が企画し、全職員で取り組む。	B	診断後の事後措置によって、受診する生徒も増えており、意識付けにはなった。
		啓発活動の推進	保健だより（環境教育を含む）を年５回発行する。	心のケアの方法やイコイバの内容や感想を盛り込み定期的に発行する。	B	保健だよりは、時期に応じた内容で、５回発行することができた。

保健環境指導		外部講師による講演会の実施	薬物乱用防止教室（年１回）や性教育講演会（年１回）を開催する。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	B	外部講師による講演会は、薬物乱用防止、性教育で実施し、生徒の８割以上が参加した。
	環境美化と環境教育の推進	環境美化の推進	職員清掃日（毎週月曜）、定期清掃日（毎週木曜）を定める。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で実施する。	A	清掃に関しては、定着しているので、継続していきたい。
		学校版環境ＩＳＯへの取組	学校版環境ＩＳＯを周知し、実践できるように工夫する。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で取り組む。 生徒保健委員会で牛乳パック等の回収を行う。	B	保健委員による牛乳パックのリサイクルは継続できている。また環境 ISO への取組も実施できている。
地域・家庭との連携	情報の発信	学校ＨＰの充実	学校ＨＰの行事ごとの更新と内容の充実に取り組む。	ＨＰ更新係が立案し、原稿作成や校正等に全職員で取り組む。	A	定時制ブログの更新を中心に、原稿作成は全職員で取り組み、内容を充実させることができた。
	連携の強化に向けた取組	保護者との連携	保護者会（４月、７月）の内容の精選を図り、出欠の返答ならびに出席率を前年度より向上させるよう工夫する。	総務部が企画し、全職員で取り組む。	B	出欠回収率は、４月、７月とも１００％であり、当日参加率は前年度と比べ４月は微増、７月は微減であった。７月の定時制保護者会を充実させたい。
		地域との連携	外部から講師を招き、保護者とともに思春期の生徒への対応や情報モラル教育等についての研修を実施する。 防災型コミュニティー・スクールを協議する。	保健環境部、生徒指導部、情報管理部が連携して計画し、７月開催の保護者会で実施する。 学校運営協議会を開催する。	B	７月保護者会で、玉名市保健所栄養士を招き、思春期の子供への食育研修を実施した。参加された保護者からは高い評価を得た。イコイバや灯で、地域の方を講師に招き、連携を行った学校運営協議会は、年３回開催した。

４ 学校関係者評価

学校評価アンケートの各項目において、保護者、生徒ともに肯定的な数値が高いのは、職員と生徒、及び保護者との連携がきちんとなされ、生徒個々に対する丁寧な指導やきめ細い関わり、着実な支援が行われているためであると思われる。学校行事にも様々な工夫がなされ、定時制の学校生活を紹介した資料の写真で、生徒の活き活きとした表情が印象深かった。本校定時制が生徒にとって登校したいと思える学校であり、そのことが落ち着いた学校生活や良好な出席状況等に繋がっているのであろう。和やかな雰囲気で温かい教育活動がなされていると感じた。先生方の自己評価が全般的に厳しいように思われ、もっと高い評価を付けてもいいのではないかと感じた。

「学校満足度」や「保護者との連携」等の項目で高い評価が出ているが、学校からのアンケート分析で指摘があったように、約半数のアンケート未提出の保護者が、今後は学校や生徒の学校生活への関心が高まるような取組が必要であると考える。また、支援が必要な生徒や就労へのハードルが高い生徒が増える中、職員の負担は益々増えているように感じる。先生方の健康と、併せて負担感の軽減や働き方改革にも取り組んでほしい。全般的にマンパワーの不足を感じるので、保護者は学校の応援団として力になれる部分は協力していきたい。

いじめ防止の対策については、生徒がＳＯＳを発することができるような環境作りをお願いしたい。情報発信については、ホームページの更新の回数やスピードが素晴らしいといつも拝見している。定時制の登校指導が、全日制・附属中学校の下校指導を兼ねる形になっており、たいへんありがたく思っている。今後も高校全日制・定時制、附属中学校と３つの総合力を生かした学校作りを期待する。

５ 総合評価

今年度は全体的に遅刻・欠席等が少なく、落ち着いた学校生活及び授業態度であった。しかし、深夜までゲームをしていたり食事をしっかりと摂っていなかったりなど、生活のリズムを崩し欠席や遅刻が増えた生徒もいたが、早めに保護者と連携を取ることで、欠席や遅刻が減っていき、生活のリズムも整ってきている。今後も睡眠や食事も含めた基本的な生活習慣について、保護者との連携を継続していきたい。

「授業の充実、授業改革」については、研究授業や公開授業、授業評価アンケート等を実施し、職員の授業の工夫・改善と指導力の向上を図ったが、残念ながら生徒の授業評価アンケート、職員の自己評価ともに厳しい評価であった。今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研修・研鑽を重ね、今後の授業内容の充実に努めたい。「個に応じた指導」については、年間を通して「玉定チャレンジ」を実施し、進路希望に対応した個別指導や就職に向けた資格取得講座を実施することができた。「特別に支援の必要な生徒への対応」については、一部の生徒に対しては、荒尾支援学校・盲学校等の特別支援教育コーディネーターの協力を得て、支援の体制を作ることができたが、年々支援が必要な生徒が増えてきており、一人ひとりへの対応が十分にできていない状況になっている。本校定時制は、生徒数は少ないが多様な生徒が在籍しており、授業・進路指導・個別の支援の全てにおいて多岐にわたる丁寧な対応が必要であり、職員の協力体制や指導・支援体制の整備が急務である。

日頃の人権教育の視点に立った指導の成果が、生徒の周囲に配慮することができる言動に表れはじめている。イライラ感や無気力感を持っていた生徒も徐々に自分の感情をコントロールした態度や発言ができるようになり、周囲と調和しようと努めることができている。また、他者を受け入れる寛容さも育ってきており、落ち着いた学校生活につながっている。

進路指導においては、担任と進路指導部を中心とした全職員で関わったが、４年次生で就労経験のない生徒の就職がなかなか決定しなかった。精神面や体調等で、就労が難しい生徒もいるが、低学年のうちからインターンシップや職業理解講座等を通して就労意欲の向上を図り、短時間・短期間でも就労経験を積むことで卒業時の進路決定に繋がる継続的な指導が必要である。

生徒会の活動を通して、学校行事等への生徒の積極的な関わりを促し、生徒が主体的に参加できるよう行事内容の工夫・改善を行った。今年度は昨年度より更に行事等への参加率も向上し（９０％以上）、行事を楽しんでいる生徒が増えた。この活動の様子をホームページに適宜掲載し、保護者、地域へ多くの情報を発信することができた。また、中学校との連携については、１０月に熊本県内の定時制・通信制高校のＰＲチラシを中学校に配付する際、本校定時制の説明を行い、受検希望者と保護者が授業見学に是非来ていただくようにお願いした。その結果、例年を大きく上回る中学生・保護者、中学校職員に見学に来ていただき、受検者も増え、ほとんどの受検者が授業を見学に来てくれた生徒であった。地元の中学校の定時制教育に関する理解が確実に深まった。

学校評価表の評価については、昨年度に半数以上の項目で肯定的な数値が上がったが、本年度もほぼ昨年度と同様の高い数値であった。評価がＡ、Ｂに上がった項目は、トータルで３項目であった。しかし、家庭等の問題を抱えた生徒の事案に対し、組織的に十分対応しているが、なかなかすぐには解決できないことも多く、関係職員による厳しい自己評価もあったが、職員の組織的な関わりにより、生徒及び保護者との良好な信頼関係を築くことができた。職員の自己評価が低い項目に関しては、職員の危機感の表れと前向きに捉え、今年度明らかになった課題を精査し、更に次年度の取組に生かしていきたい。

６ 次年度への課題・改善方策
第１に継続的な課題として「授業改善」と「特別に支援の必要な生徒への対応」である。授業については、授業評価アンケートにおいて評価の低かった「自分の考えや意見を出しやすい授業」、「ＩＣＴ機器を活用した授業の工夫」等の項目を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業改善に取り組んでいきたい。支援の必要な生徒への対応は、職員研修等で学んだユニバーサルデザインの視点に立った授業での配慮を、全職員で実践していく。次年度も生徒理解研修等を通して、個々の生徒に対する職員の共通理解を深め、適切な支援を行っていく。また、今年度実施できなかった職員研修（発達障害の当事者に学ぶ、障害者の就労等について）を是非実施して、職員の特別支援教育のへの理解を深めたい。 第２の課題は「進路目標の実現」である。ここ数年本校定時制は、生徒全般の学校生活は落ち着き、出席率も上がり、授業や行事等に積極的に参加し、自分の将来の目標をしっかりと持つ生徒が増えてきている。次年度は、この状況を更に一歩進め、生徒の情報を職員全員で共有し、今年度同様きめの細かい対応をすることで、低学年から進路目標を明確に持たせ、その実現に向けて、インターンシップ等の就労体験や玉定チャレンジ等への積極的な参加を促し、低学年からの継続的な進路指導を組織的に実践して、生徒の進路目標の実現に繋げていきたい。 第３の課題は「保護者との連携、中学校との連携」である。行事等に関する生徒及び保護者への連絡は、書面だけでなく担任からの電話連絡も行われている。また出欠状況についても、担任が保護者と電話連絡を取っており、生徒の学校での様子を保護者は理解されている。しかし、生徒と保護者との関係が良好でない場合等は、生徒の出席状況等の改善に繋がらないことも多い。担任、学校と保護者との連携を更に密にするためには、保護者会等の学校行事へ参加していただくことや学校及び家庭での面談の機会を持つことが大切である。次年度は、そのような保護者との連携の機会を更に増やしていきたい。中学校との連携については、今年度の取組を更に充実させ、積極的に中学校への情報発信や連携を心がけ、本校定時制教育への理解を更に広めていきたい。